

令和6年度 山梨県立わかば支援学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	小中高一貫教育のなかで一人ひとりの思いに寄り添い、たくましい力とゆたかな心をもった児童生徒を育成する
-----------	--

本年度の重点目標	1 特別支援教育の推進
	2 3学部をととした系統性・一貫性のある教育活動の展開
	3 安心・安全な学習環境の確保
	4 個に応じた指導の充実
	5 教員の働き方改革の推進

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

山梨県立わかば支援学校校長 小林 勝

自 己 評 価			
本年度の重点目標			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	特別支援教育の推進	教職員の専門性の向上	・各種研修会の開催 ・外部専門家との協働
		授業力、授業づくりの向上	・校内研究の実施 ・アンケートの実施
		地域へのインクルーシブ教育システムの推進	・地域の関係機関への研修回数 ・コーディネーターの地域の学校への訪問支援の状況
2	3学部をととした系統性・一貫性のある教育活動の展開	学部目標の柱を統一したことによる系統性・一貫性のある教育課程の編成	・校内研究の実施 ・アンケートの実施
		目標を明確にした体験的学習による教育活動の推進	・実施状況 ・アンケートの実施
3	安心・安全な学習環境の確保	防災・防犯に向けた危機管理体制の確立	・マニュアルの整備 ・効果的な訓練の実施状況
		施設・設備の定期点検による安全の確保	・危険箇所の把握等の対応状況
		児童生徒が安心できる学習環境の確保	・アンケートの実施
4	個に応じた指導の提供	「個別的教育支援計画」・「個別の指導計画」を活用した適切な指導及び必要な支援の提供	・活用及び提供状況 ・アンケートの実施
		キャリア教育計画・進路ガイドブックの充実による客観的な実態把握の促進	・進路に係るアセスメント、キャリアパスポート実施状況
		評価規準の明確化及び指導と評価の一体化	・評価項目の具体化 ・アンケートの実施
		ICT機器の活用と遠隔教育の環境整備	・ICT機器の使用状況 ・ICT活用能力実態チェックリストの活用状況 ・アンケートの実施
5	教員の働き方改革の推進	定時退校日・きずなの日の実践、夏季休暇などの特別休暇や年休の取得により私生活を充実させ、学校教育に反映させる。	・定時退校日、きずなの日実施状況(目標それぞれ年間20回以上) ・年休消化状況(目標年間15日)
		「働く意欲が高まる職場」の創出	・ストレスチェックの集団分析結果
6			
7			

年度末評価(1月31日現在)		
自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
・月に1度は研究日を設け、全体、学部、学年で評価と指導が一体化する「個別の指導計画」や「通知表」をテーマに行った ・夏季休業中には外部専門家を招聘し「観点別評価の取り組み」について研修会を行った ・地域関係機関への研修2回 ・コーディネーターの地域の学校訪問支援36回 ・専門家相談67回(今後5回予定)	A	・研究推進部の計画に基づいて、次年度も同じテーマを掘り下げていく。実践に結びつける ・回答できる児童生徒の9割以上が、授業や学校・教師に対して高評価をしている ・訪問支援の回数が昨年度の22回よりも激増した。制度が認識されたことや、ニーズの高まりがその理由と思われる
・教育課程の一貫性について教職員の84%が達成と回答 ・教職員の96%が、学校行事が必要な内容を計画的に実施と回答 ・各学年で計画をしているので、学校全体では校外学習が重なって行われている時期があった	B	・小中高の学部を通した系統的な指導がなされていないとの少数意見もあった。学校全体で、教育内容を見直す必要がある ・学習発表会や校外学習が児童生徒の発達や成長を支えていると保護者の98%が回答 ・学校行事の充実が、教職員の負担とならないようにすること
・マニュアルは整備済 ・95%以上の教職員が防犯、児童生徒の安全対策に努め、適切な訓練・役割分担ができていると回答 ・85%の教職員が施設・設備の補修が迅速になされていると回答	B	・児童生徒が安全に学校生活を送れるように、個人情報の管理も適切に行う ・避難訓練について児童生徒は95%がよくできたと回答しているが、実際に災害が起きたときに役立つように、日ごろから防災教育に努めていく。大規模災害の発生に備え、100%を目指していく
・「個別の支援計画」については、87%以上の教職員が適切に作成、活用 ・アセスメントシートは昨年度に引き続き検討中(今年度は全校に広げて意見を聞いている) ・キャリアパスポートは全校が作成しており、毎年進路指導部で更新している ・校内研究のテーマとして通知表の形式を上げた。業務改善にもつながり、指導も一貫するので、諸帳簿が連携する形を目指した。 ・多くの授業でICT機器を活用し、児童生徒もiPadの操作に慣れ、使用することを楽しんでいる様子が見られる。登校が難しい生徒に対して遠隔教育を行った。	B	・保護者の8割は「個別の支援計画」が適切に活用されていると回答しているが、一方で15%が「そう思わない」と回答している。保護者との共通理解をさらに進める ・アセスメントシートは継続するかどうかを含め、活用について検討していく ・キャリアパスポートの活用方法 ・具体的な形には結びついていないので、実用化するためにはまだ検討が必要 ・約8割の児童生徒が授業でICT機器を使っていると回答。実際はほとんどの授業で使っているなので、児童生徒の認識を高めていくことも必要
・月に2回金曜日に「定時退校日・きずなの日」を設け、現在21回実施 今後3回実施予定 ・年休の取得平均日数は12日(1月31日時点)だったが、特別休暇や振り替えが周知され、多くの職員が利用した。 ・高ストレスを感じている職員が4.5%	B	・定時退校により、週休日に出勤せざるを得ない状況があったり、保護者対応などで定時退校ができなかったりする職員がいたので、単なる時間の問題ではなく、業務量を削減したり、効率化したりすることが課題 ・高ストレスを解消することは喫緊の課題 働き方改革や、風通しの良い職場への取組、管理職は面接などを通して、職員の心身の状況を把握する

学校関係者評価	
実施日 (令和7年2月17日)	
評価	意見・要望等
4	・訪問支援の回数が増加したことについて、地域から本校のセンター機能に対する強い期待があると理解した。今後も地域の特別支援教育の中心的役割を担っていただきたい。 ・訪問支援の回数が増え、それに対応しているのは素晴らしい。 ・健全児が通う学校よりも生徒間のレベル差が大きいと考えますので、何が延ばせるのかを個々のレベルに合わせ指導することが望ましいと思う。 ・インクルーシブ教育の推進については、「交流及び共同学習」、特に、居住地校交流の取組みに焦点を当てて、その成果を報告されることを期待する。
	・学校としての系統性・一貫性は、難しいテーマであると思うが、学部間や学年の認識のずれを減らし、縦の連携を強化していくためにも重要な内容であると思う。「系統性・一貫性がなぜ大切なのか」「一貫性・系統性の観点の整理」といったことを教員一人一人が自覚できるような対話の機会が重要であるとする。
3.3	・多くの生徒に対し、きめ細やかに対応している。 ・行事の意味や役割については、慣例で実施するのではなく、十分な議論に基づいて実施されることが望まれる。特に、児童生徒が行事や教科で何を学んでいるのか、何を大切な経験として受け止めているのかについて、児童生徒の声を聞くことを含めて、検討することが大事であるとする。
3.8	・日ごろから生徒と向き合っている事が、いじめなど生徒指導問題に対して早めの対応に繋がったのではないかと思う。 ・わかばを卒業している生徒の中でもSNSの活用については自分のプライベートを何のフィルターもなく公開してしまったり、他者の理解も確認もなく相手が特定できてしまうような使い方をしてしまうこともある。授業の中でもすでに取り入れてくれていることもあると思うが、こうした脆弱な点や危険が多く含まれていることに対する教育についても多く取り入れてくれると良いと感じる。
3.3	・多忙な状況ながら個の対応への取り組みは省略することなく取り組まれていることが分かった。 ・アセスメントシートのあり方など再編できることや他事業所(福祉)のフォーマットを引用させてもらうなど簡略化できることなどがあれば積極的に取り入れていくことも業務効率化の一つではないかと感じる。 ・進路に関して、進路指導主事1名の体制で対応されていると聞いた。多くの卒業生の進路を進めていくにあたっての体制として少し厳しいのではないかと感じる。来年度には就労選択支援も取り入れられてきて、進路担当の負担増も考えられる。進路担当職員の負担を減を考えるために、アセスメントの再編なども検討の視野に入れてみてはどうか(就労アセスメントは対応事業所の内容をそのまま活用させてもらうなど)。
3.8	・教職員の増員を希望する。 ・学校全体での多忙改善に向けた具体的な取り組みが不十分である。 ・学校側からも働きやすい職場環境を整えていることは十分に理解出来た。 ・実態としては教職員の各対応においてもありなかなか定時退勤ができないことなどからも日々の業務の大変さが理解出来た。 ・本当にやらなければならない事を優先し、効果が少なく長年の慣習で行っている事はひとまずやめてみる事も大事ではないだろうか。コロナ禍で得たことも大きいと思う。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。